

<海外情勢>

## 謹 賀 新 年

### あけましておめでとうございます

令和3年のお正月を迎えました。

去年は新型コロナ騒動で、たいへんご苦勞をなされたことと思われま

そうした中、弊紙をご愛読いただき、またご支援いただいたことに対し、

心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

新型コロナ「コビッド 19(Covid-19)」は、まだしばらく続きそうです。

いつまで続くのか、正確なことは誰にもわかりません。夏前には収束するだろうとの見通しを語る学者もいますが、2024年いっぱい続くだろうとの観測もあります。我慢の日々が続きそうですが、明けない夜はありません。

今年は辛丑(かのとうし)の年です。

古来、五行説では、すべては「木・火・土・金・水」から成り立ち、それぞれに「陰陽」があると考えられました。これが十干十二支にあてはめられ、今年の十干は「金」の「陰」である「辛(かのと)」で、十二支では「丑」、動物にあてはめると「牛」となります。つまり今年は「金の牛の年」です。

「金の牛」に暗示されるように、今年は日本の株式市場が暴騰し、バブル景気がやってくるとの見通しがあります。その可能性は高いと本紙も見していますが、なにぶん激動激変の時代ですから、何が起きるかわかりません。バブルで世間が浮かれようが、牛のように、しっかりと大地を踏みしめ、ゆつくり歩むことが肝要だと思います。

バブルで日本中が浮き足立っても、近隣で戦火の炎が立ち上っても、地に足をつけて牛のように着実な一步一步を踏みしめて前に進んでいきたい。今年はそうあるべき年と考えております。

世界の激動にあわせるかのように、今年は日本国内も身の周りも、騒々しくなりそうです。

読者の皆さまにおかれましても、表面に現れるうわついた騒乱に惑わされることなく、軽拳妄動を排し、落ち着いて、腹を据えて物事に対処して頂ければと考えます。

今年の終わりに、皆さまと共に、笑顔で一年を振り返ることができれば、弊紙にとっても無上の喜びであります。どうぞお健やかに一年をお楽しみください。

今年もまた読者諸兄のご指導ご鞭撻のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

行政調査新聞社 一同



## 年 頭 短 観

年頭に当たり、正月以降短期間の見通しを簡単に記すことにします。

それぞれは解説すると長くなりますので、本紙の分析に基づいた予測を大雑把に記します。

何かのご参考にしていただければ幸いです。

### 「大統領選の混乱が尾を引く米国」

バイデンか…トランプか…。米大統領選の決着はついていない。1月3日には米議会が召集される予定で、6日には上下院合同本会議が開かれる。通常であれば、この日に下院の各州代表の一人が1票を投じ、大統領が決定する。今回は米国の歴史上初めてとなる混沌とした状態だ。

おそらく議会ではバイデンが選出され、大統領に指名されるだろう。だがトランプは不正選挙を訴え、引き下がらず、「自分が正式な大統領だ」との立場を崩すことがないと思われる。

トランプは、1月6日に首都ワシントンDCでの大規模デモへの結集を呼びかけている。

1月6日から米国の混乱が世界中に拡大していく。外交も軍事も、行政の末端に至るまで、米国中が混乱する。米国の混乱は世界中に波及する。NATO軍も混乱し、中東や対中国の戦略行動に支障が起きる。日本の政界、経済界に与える影響も計り知れないものとなるだろう。

### 「菅首相は早期の解散総選挙を見送る」

通常国会は1月18日に召集される見込みだ。昨年6月に菅義偉内閣が成立した時点では、コロナ禍など諸情勢から早期解散が見送られ、1月の通常国会冒頭の解散が有力視されていた。ところがその後、「河合克幸・案里夫妻の選挙違反事件」「吉川貴盛元農水相の現金授受事件」安倍晋三の「桜を見る会」前夜祭問題など、自民党にマイナスとなる事件が連発。

新型コロナの対応に国民の不満が重なり、菅内閣の支持率は急落。解散に打って出る可能性は少なくなった。安倍晋三の桜前夜祭問題、吉川元農水相事件も、その奥深いところに米大統領選の状況や米国の対中政策の影響がある。いわば、とぼっちりを受けたようなものだ。

地検特捜部が動いたこと自体、背後に米国の特に軍産複合体が絡んでいることが透けて見える。しかし根源的には、安倍や吉川が法を犯したことに起因している。

吉川は議員辞職すれば追及が弱まると踏んだのだろうか。安倍は全てを秘書の責任にすれば、謝罪会見で事が足りると考えたのだろうか。政治家当人がこんな甘い見通しを立てること自体が、我が国の政界全体の「ぬるま湯体質」を物語っている。安倍は議員辞職すべきなのだ。

我が国憲政史上最長内閣を率い、米国と密な関係を築きながらも堂々と中国に接近してきた名宰相であっても、法を犯せば議員辞職せざるを得ないという姿が見えれば、利権に蠢く怪しい勢力が襟を正すチャンスを作ることができた。

1月解散が見送られたことは野党に好材料となるが、今日の我が国野党は政権党となる素質も資格もまったくない。利権に熱心な与党派閥が崩れれば、政界再編も夢ではない。10月の衆院任期満了までに政界再編があるかどうか。国際情勢次第だが、その可能性は高いと考える。

## 「バブル景気を迎える日本」

新型コロナで世界中の多くの国はカネをばらまいた。我が国でも休業支援金・助成金・給付金などといった名で莫大なカネがばらまかれている。想定外のカネの支給は、適材適所に配られたわけではない。コロナで収入が激減し、食えなくなって死を選ぶしかない人々も出てきた。

それとは逆に、潤沢なカネを手にした連中もいる。泡銭（あぶくぜに）を手にした笑いが止まらない人たちが、世界中に大量に出現した。世界中の各国政府がばらまいた資金が、今、金融市場に降り立とうとしている。ばらまかれたカネは不動産や仮想通貨・ゴールド（金地金）に回ったが、より多くのカネが株式市場に向かおうとしている。

しかし世界中がコロナ禍にあえぎ、経済が失速しているなか、投資先は限られてくる。その投資先は、先進国の中でコロナ被害が異常なまでに少ない日本になる。既に証券・生保を筆頭とする機関投資家たちが日本に上陸し、投資のタイミングを見計らっているとの情報もある。

また機関投資家とは無縁の、数百億…数千億円を手にする個人投資家たちが日本に上陸しているとの情報もある。早ければ1月末にも…普通に考えると春先には、日本市場は暴騰する可能性が高い。株式市場がいくら暴騰しようが、我々庶民には無縁だと思われるかもしれないが、そんなことはない。お零（こぼ）れという虚しく聞こえるが、株価が暴騰すると市場が活性化する。末端の思わぬところにまでカネが回ってくるようになる。

だがこれは、所詮バブル景気なのだ。浮かれ過ぎないように心を引き締めることが肝要だ。

## 「東京五輪は中止」

今年7月23日開幕予定の東京五輪は中止されるだろう。I O C（国際オリンピック委員会）バツハ会長は「観客を入れての開催に自信を持っている」と語っているが、いっぽうでI O C コーツ調整委員長は「新型コロナウイルスの感染が収束しない限り、東京五輪の開催はありえない」と否定的だ。

昨年末に行われたNHKの世論調査でも「開催反対」「さらなる延期」が過半数を超え、五輪開催に対する国民の支持は得られていないことがわかる。

新型コロナの変異種が世界中に広がり、日本にも上陸している。おそらく近い将来、I O C が正式に五輪開催中止を宣言するだろう。中止が決定すれば、一瞬は国内に暗い空気が漂い、株価も下落するかもしれない。だが中止はむしろ歓迎されるはずだ。中止決定は日本ぜんたいに安堵感を呼び、これを契機にすべてが反転して上向きになるだろう。

問題は**中止宣言が出される時期**だ。3月あるいは4月早々に中止が決定し、その後の社会状況が上向きになれば、国会会期中の衆院解散、総選挙が行われることになる。解散総選挙の時期は国内景気だけでなく、国際情勢にも左右される。米国の混乱と同時に、近隣諸国の動静も関係してくる。いずれにしてもI O Cの動きには目を配っておく必要がある。

## 「尖閣諸島で日中衝突！ 北朝鮮ミサイルが日本直撃！」

米国の大統領選以降の混乱は極東に緊張をもたらしている。中国に対する不安定な圧力が高まっている。一定していない圧力は中国を極度に刺激し、その圧力を交わすためのはけ口として、台湾に向かう可能性が高まる。だが米国の支援がなくとも、台湾の防御は堅い。

とくに南側——米軍基地のあるグアムを初め、ベトナム・インド・オーストラリア軍は強力な連携力を持っている。一方、台湾の北側を守るのは沖縄の駐留米軍しかない。中国が「**台湾侵攻をやるぞ！**」と脅しをかけるために、沖縄に進出する可能性が高い。

といっても、人々が暮らしている沖縄本島・南西諸島に侵攻することはあり得ない。考えられるのは一時的な尖閣侵攻だ。もし中国軍による尖閣侵攻が現実のものとなれば、海自艦船と中国軍艦との衝突は必至。日本中に衝撃が走り、憲法9条に対する世論喚起になる。

米国の混乱を見据えて、北朝鮮が暴発する可能性も高まっている。北朝鮮の金正恩は、本来は軍産複合体に飲み込まれていた。軍産複合体の手駒の1つだった。それがトランプに懐柔され、核実験やミサイル発射を停止していた。

トランプが大統領選に敗れ軍産に支援されたバイデンが大統領になれば、再び核実験やミサイル発射を開始する可能性がある。しかも、軍産側に復帰することを印象づけるために、派手に花火を打ち上げるだろう。予想されるのは「**人工衛星の打ち上げ**」と銘打って、日本列島の頭を越える弾頭ミサイルを発射することだ。

そのときにはロケット第一弾ブースターを日本列島のどこかに落下させるだろう。

北朝鮮のミサイル技術は非常に精巧だ。第一弾ロケット切り離すと、その落下ポイントを正確に定めておきながら、「**第一弾切り離しに失敗**」と弁明することも考えられる。この事件で在日米軍の意義が高まる可能性もある。

## 「自然災害の多発と世界の大転換」

昨年末に「**ローマ教皇が生前退位する**」との情報が世界を駆け巡った。ローマ法王庁が発表した情報ではなく、噂レベルのものだが衝撃は大きかった。日本人にはあまりピンとこないが、キリスト教社会ではローマ教皇といえば天皇陛下のような存在。前の教皇ベネディクト 16 世は 2013 年に生前退位したが、この生前退位は実に 600 年ぶりのことだった。

オカルトの世界ではよく知られた話だが、12 世紀の大司教である聖マラキが残した奇妙な予言があり、そこには今の教皇が「**最後のローマ教皇になる**」と記されているという。キリスト教世界ではこの予言が成就すると思われているらしい。それは「**世界が終わる**」という暗示だということだ。ローマ教皇が生前退位されようが、いなくなろうが、世界が終わることはない。

キリスト教世界以外ではあまり重要視されていない話だが。実のところ、ローマ教皇と関係があるかどうかは別として、地球を取り巻く環境は激変している。

「**世界が終わる**」かのように激動している。昨年秋以降、太陽の活動が突如として活発化し、太陽嵐が地球を呑み込む可能性まで指摘されている。もしそうなったら電磁波障害が起き、半月から 1 カ月も**携帯電話が停止**してしまう。携帯だけならいいが、**テレビもラジオも停止**。**車のナビも使えず、銀行の ATM も停止**する。銀行業務は全面停止。最悪の場合は電気・ガス・水道まで止まってしまう。それほど酷い障害が起きる可能性は低いですが、地球の自然環境が異常になる可能性は高い。

実際、身の周りの自然は今、大きく変化している。自然環境の巨大な激変が日本列島を襲う可能性は非常に高い。地震・豪雪・豪雨に限らず、思いもよらぬ自然災害が起きることを頭に入れておく必要がある。今年には自然災害から人災まで、いろいろな出来事に見舞われる年となるだろう。普段から平常心を忘れず、あせらず慌てず沈着冷静に、そして敏感に対応できるように気を配っておきたい。

今年の終わりには、笑顔で一年を振り返ることができるよう、皆さまのご健康、ご多幸をお祈りいたします。■